令和５年度　文学部　歴史学科　学校推薦型選抜　総合問題
解答例・解答のポイント

1

（１）【訳例】

9 世紀に帝国を確立しようとするカール大帝の努力が衰退した後、西ヨーロッパは政治的に無秩序であった。統治者が他の領主から何らかの奉仕を獲得できる唯一の方法は、土地の授与を含む封建的な恩恵を彼らに提供することであった。けれども、それに加えて封建制は、より安定し、より大きな政治的単位を生み出す関係を提供することができた。

日本では 9 世紀には封建制が登場したが、それは中国式の帝国システムを構築する努力の失敗の後であった。西ヨーロッパと同様に、広くゆきわたった混乱が領主と臣下の地域ネットワークをもたらした。中央政府はこの制度を管理しようと試みたが、数世紀にわたって大きな効果は得られなかった。しかし、12 世紀の間に、一人の中心となる領主である源氏一門の頼朝が鎌倉幕府をたてたが、これは封建制を廃止せずに地方の臣下たちに対してさらに効果的な支配を行った。ヨーロッパと同様に、日本の封建制度はたんに政治的な支配や管理だけでなく、一連の信念や価値観も含んでいた。

（２）【解答例】

帝国システムを作り上げる努力が失敗した後に封建制が登場したと考えていること、封建制はより安定し大きな政治単位を生み出せたこと、また政治的な支配や管理だけでなく価値観や信念を含んでいたと考えていること。

2

（１）【訳例】

19 世紀初頭に東インド会社が新しく獲得した領土への「茶栽培の導入」という考えは、より広範囲の地政学的、商業的、科学的進展と関連していた。そこでは、中国との通商関係の不確実性、茶貿易の収益性、世界の他の地域での茶の繁殖のかなりの成功の結果、この考えが、緊急性があり利益が出るだけでなく徐々に実現可能なものになりつつあった。これについてすぐに考慮すべき問題は、インド亜大陸の広大で多様な領土における土壌や気候の多様な状態を、実地調査し、評価し確定することだった。そうすることで、この中国の植物が、民間投資にとって採算が取れる程度に繁殖できるような的確な連携活動が提供できるだろう。1834 年 2 月、インドへの茶の導入のための諸方策を検討し推奨する「試み」を実施するための制度的科学的組織として、茶委員会が正式に設置された。

（２）【解答のポイント】

イギリスは中国との自由貿易を求めていたこと、中国は朝貢貿易の姿勢を崩さなかったこ

と、イギリスは中国から大量の茶を輸入しており、その支払いのためインド産のアヘンを輸出するようになったこと、中国はアヘン輸入が財政や国民の健康に被害を与えたため、アヘン輸入を禁止したこと、以上のポイントのいくつかを指摘する。

1、2とも 50 点満点　（1）40 点　（2）10 点